

占領下の岐阜県 —戦後社会の胎動—

令和7年 10月14日(火)~11月28日(金)

入館無料

◆会場 岐阜県歴史資料館 1階展示ホール

◆開館時間 午前9時~午後4時30分 ◆休館日 土・日・祝日(ただし、11月3日・文化の日は開館)

町村の主人公は町村民

町村の主人公はど
こまでも、私たち
町村民自身である
ことを忘れてはな
りません。

町村議会の議員も町村長
も、私たち町村民の手で
選ぶのです。選挙を通じ
て私たちの声を町村の政
治の上に反映することが
できます。



新日本建設国民運動 公民の権利と義務

総理省
文部廳

新日本建設国民運動
公民の権利と義務(昭和23年頃)

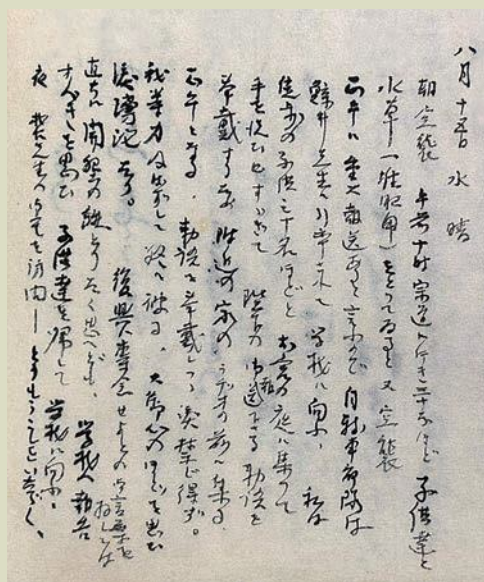
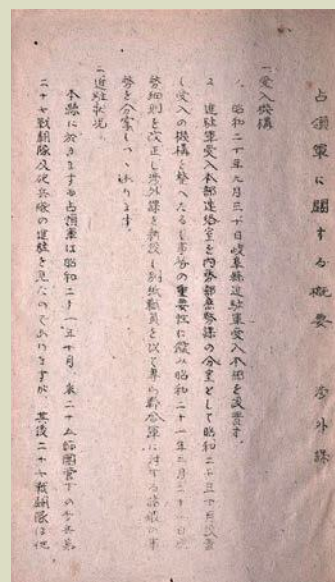
かたやまてつ
片山哲内閣が実施した、新日本建設
国民運動のポスター。
全9枚中の3枚目。
選挙を通じて政治に自分の意見を
反映できる住民が、自治体の主人公
であるとしています。

占領軍に関する概要 (昭和23年)

岐阜県から県議会への提出
資料。昭和20年10月から
本格的に岐阜県へ進駐した
占領軍(連合国軍)の受入
れ体制や接収された建物、
県による警備の状況などが
記されています。

松実(昭和20年)

ほらど
洞戸村(関市)出身の教育者・
のむらよしべえ
野村芳兵衛の日記。きよくおん
昭和20年8月15日、玉音放送
当日の様子や、野村が日本の
敗戦に強いショックを受けたこと、
また復興を含め、今後どのよう
に生きていくべきかが記されて
います。



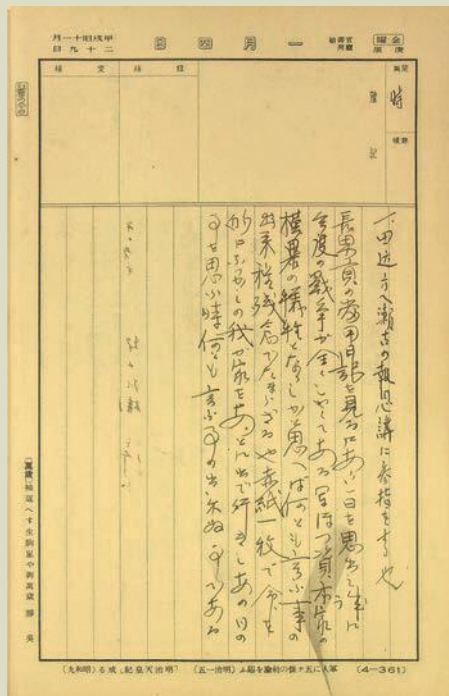
占領下の岐阜県 —戦後社会の胎動—

太平洋戦争は、アジア、太平洋地域に大きな被害を与え、日本でも多くの出征兵士が命を落とし、各地が連合国軍による空襲により大きな被害を受けました。昭和20年(1945)8月、日本はポツダム宣言を受諾し、連合国に降伏しました。以後、昭和27年のサンフランシスコ平和条約の発効まで、日本はアメリカを中心とする連合国の占領下に入りました。

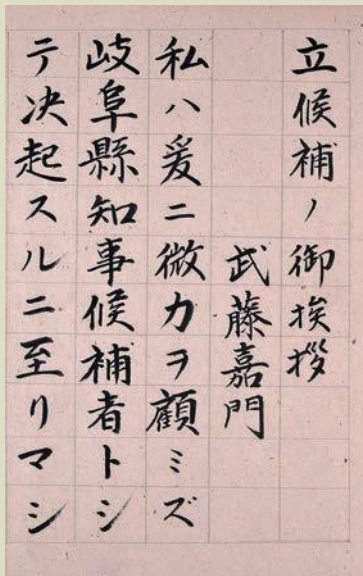
占領期(1945～1952)、日本では戦災の復興と共に民主化が進められ、それまでの価値観や社会の仕組みが、新しいものへと変わりました。そしてそれは現代社会の起点でもありました。

当企画展では、公文書や個人の文書から、占領期の岐阜県における出来事や人々の思いを紹介します。

◆肉親を失った悲しみ、憤り



◆初めての県知事選挙



えなのこども(昭和24年)

恵那郡内の小学1～3年生の文集。名古屋見物で見た進駐軍の様子や父親がシベリヤから帰ってこない友達のこと、戦地から帰ってきた父親との初めての対面など、戦後間もない頃の社会の様子が書かれています。

立候補ノ御挨拶(昭和22年)

第1回岐阜県知事選挙の立候補者むとうかもん武藤嘉門の演説原稿の冒頭部分。戦後、県知事を始め地方自治体の首長の公選制が導入されました。この選挙では、民間出身の武藤とこれまで務めた官選知事との間で争われ、武藤が当選しました。

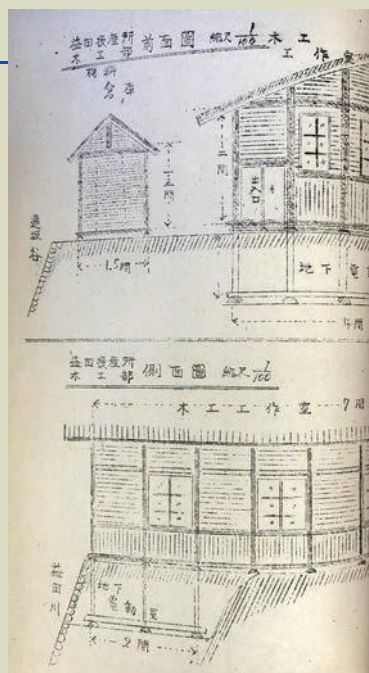
◆子どもが見た戦後社会



公益益田授産施設設置計画書(昭和21年)

ました かわし
益田郡川西村(下呂市)に設置された授産施設の計画書。授産施設は、県内25カ所に設置されました。益田地方の引揚者、復員者、戦災者などの生活困窮者のため、農耕地の拡張あるいは開拓による食糧増産のほか、木や竹を原料とする加工製造業の授産が行われました。

◆益田郡における復興政策



野原武雄日記(昭和23年)

やぎ くついの はらたけお
揖斐郡養基村沓井(池田町)の農家・野原武雄の日記。戦死した長男・貢の日記に書き継いでいます。長男の死に対する悲しみと共に、戦争を主導したと考える、軍閥・資本家への怒りを記しています。野原武雄は、後に村の遺族会会長を務めました。

岐阜県歴史資料館

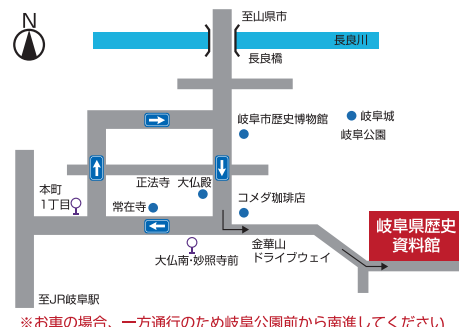
〒500-8014 岐阜市夕陽ヶ丘4

電話 058-263-6678

交通: 岐阜バス「本町1丁目」バス停下車、東へ徒歩8分

岐阜県歴史資料館

検索



※お車の場合、一方通行のため岐阜公園前から南進してください